JHPC-quantumシンポジウム2026　閉会挨拶

量子の民主化 QC for Everyone

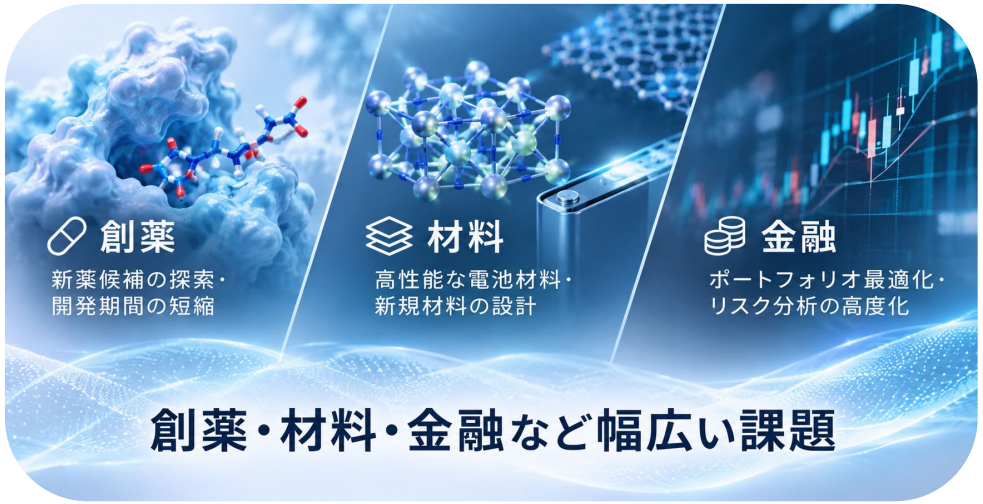
研究者からエンジニアへ、日常使いできる計算基盤

ソフトバンク株式会社
プロダクトR&D本部 量子技術統括部 統括部長
小宮山 陽夫

JHPC-quantumプロジェクトの実績

実働する基盤から、実証の機会へ





実働する量子・スパコン連携基盤

量子 × HPC

量子コンピューター ↔ 富岳、ROQUO

量子コンピューターの
利用環境を提供

テストユーザープログラム

第1–2期	第3期
21 件	20 件

アプリケーション実証の
機会を創出

「使える環境」から、「価値を試せる機会」へ。

2029年を、量子普及の要所に

2029

年に向けて

性能向上を、
より多くの課題への挑戦へ

量子 × HPC × AIで、
段階的な実用化を進める。

いま
実機で試す

2029年に向けて
実業の価値を磨く

その先へ
利用の裾野を広げる

2029年は当社が見据える戦略上の目安です。性能向上や普及の時期には不確実性があります。

量子民主化を進める、3つの要

SoftBank

事業面の要 01

顧客企業のROI実証

量子を使うことで得られる
実業の価値を証明する

事業指標をKPIとして
量子技術を評価

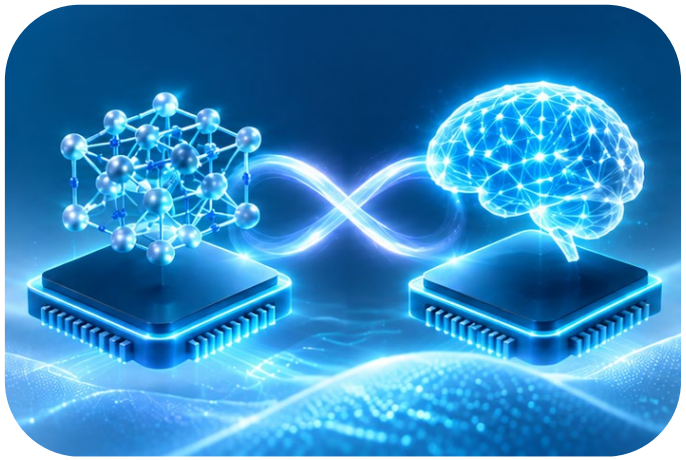


技術面の要 02

Quantum for AI

AIを、量子で強化する

AIを起点とする
量子技術の導入シナリオ



可用面の要 03

専門性の壁を低くする

量子を専門としない
技術者も使いやすく

現在の開発環境からの
アクセス容易性を重視

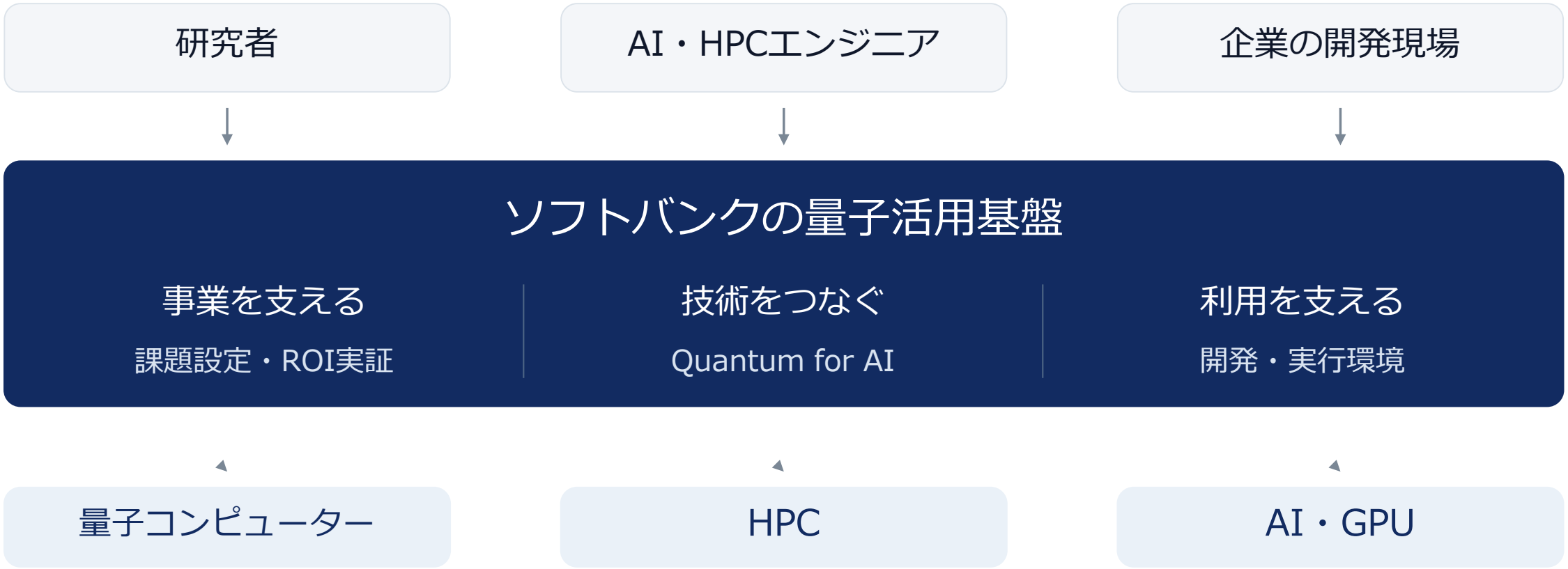


ジェネラリストが理解できる顧客価値の証明

私たちの役割

SoftBank

量子を「使える形」にする



事業・技術・可用面を支え、量子の民主化を実現

SoftBank

量子を、
挑戦するすべての人の力に

QC for Everyone

研究の成果を、実業の価値へ
皆さまとともに、量子の民主化を

ご参加・ご登壇・プロジェクトへのご協力に、心より感謝申し上げます。


SoftBank